

スマートフォンの活用法 高校生熟議 in Osaka & Tokyo

内閣府, 文部科学省, 総務省で高校生がリアルにプレゼンテーション—

羽衣学園高等学校 米田 謙三

高校生熟議は、2011年度に「高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」としてスタートし、昨年で2年目となりました。昨年は大阪に加え、東京でも開催し、約3ヵ月間にわたる三回のリアル熟議と文部科学省「熟議カケアイ」を利用したネット熟議を開催しました。最後は、東京と大阪の代表者6名の高校生による「高校生熟議サミット」を開催し、提言をとりまとめました。この提言は、「高校生の意見を中央に」と考え、内閣府、総務省、文部科学省でプレゼンテーションも実施しました。

1. はじめに

高校生熟議の目的には二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、「熟議」を通して、初対面の人と話し合うという経験をし、段階的に「考え、まとめる、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。もう一つの目的は、社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安全に、安心して使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のよりよいインターネット利用環境の構築の一助とすることです。昨年度は、急速に普及しているスマートフォンについて、高校生がその問題点と向き合い方について熟議を実施しました。また、高校生熟議では、通信事業者やサイトの運営事業者、情報モラルに携わる団体などと連携したキャリア教育としての側面も持ち合わせ、さらにその連携が強まりました。(表1)

高校生熟議 2012 スケジュール

7月21日	第一回大阪 【リアル熟議】
8月26日	アイスブレイクイベント
9月8日	第一回東京 【リアル熟議】
9月9日～10月14日	ネット熟議
11月3日	第二回 大阪 東京【リアル熟議】
12月15日	高校生熟議サミット
1月28日	総務省・内閣府・文部科学省プレゼン ※アイスブレイクイベントは大阪のみの開催。

表1 スケジュール

2. リアル熟議

高校生熟議の具体的な様子について、大阪での熟議を中心に紹介します。

2.1 第一回大阪 リアル熟議

第1回は高校生、教員、企業関係者など100名

以上の参加者を得て、「スマホって何？」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。第一部のスマートフォンに関する講演では、スマートフォンに関連する企業の方にご協力いただき、それぞれ10分程度のプレゼンをしていただきました(表2)。第二部では、まず、学校ごとに自己紹介をして少し緊張感を和らげた後、グループ分けをします。グループは、学

講演のテーマ

「スマホ時代の到来」	株式会社ミクシイ様
「スマホとガラケーどう違う?」	株式会社ディー・エヌ・エー様
「スマホの便利さと課題」	グリー株式会社様
「スマホに必要なリテラシー」	NHN Japan 株式会社様

表2 企業の講演テーマ

校も学年も異なる初対面の高校生と、熟議を円滑に運営していくファシリテーター、専門的な質問があったときにすぐに対応するサポーター、熟議の様相を記録する書記からなります。ファシリテーターは大阪私学教育情報化研究会のメンバーが、サポーターには第一部でご講演いただいた企業の方、書記は以前の熟議に参加したOB、OGが務めました。いよいよ、熟議開始です。高校生たちは付箋紙にスマホのよい点とよくない点をメモしながら、意見を出し合っていきます。自分たちのケータイへの依存の高さや、ケータイへの不満など、歓声上がるほど活発な意見が出されました。付箋紙を模造紙に貼り付けていながら意見を整理・分類して、各グループで第三部での発表内容をまとめて行きました。第三部のグループ発表では、グループごとに上記をまとめた内容を3分程度で発表して行きました。各グループとも、スキットや役割分担を決めるなど工夫を凝らした発表でした。

2.2 アイスブレイクイベント

高校生熟議 2012 in 大阪では、高校生が熟議を通じ議論をするとともに、相互の理解、親睦を深めるとともに、熟議テーマの理解を深め、熟議の成果のプレゼンテーションをより充実したものとするため、アイスブレイクイベントを開催しました。アイスブレイクイベントでは、NTT docomo のケータイ安全教室の受講と docomo が考える 2020 年の映像を鑑賞しました。また第二部では NTT ラーニングシステムズの方によるプレゼンテーション手法に関する講演の後、複数の班に分かれ、よりよいプレゼンテーションにするためのグループワークを行いました。最後に、グループワークの成果を班ごとに発表しました。

2.3 第 2 回 大阪×東京 リアル熟議

第二回では、「これからのネットとケータイを考える」をテーマに活発な議論と発表を行いました。

第一部では大阪と東京の会場を TV 会議でつなぎ、お互いに学校紹介と質疑応答をしました。質問のやりとりでは、地域の特性が出てとても盛り上がり、場も一気に和やかになりました。

第二部の熟議では、これまでの熟議のように模造紙での発表ではなく、パワーポイントにまとめて、それを使って発表をお願いしました。プレゼンテーションの内容と共に、どんなプレゼン資料にすればいいかも話し合います。スライドはあらかじめ 3 枚のフォーマットを用意し、1)「スマートフォンって何」、2)「スマホのトラブルにどう対処する」、3)「スマホ世代の高校生の主張」の内容で論点をまとめていきます。

第三部のグループ発表では、グループごとにスライドを発表していきました。全ての班が短い時間の中で内容をうまくまとめた発表でした。発表方法も工夫を凝らしたものが多く、大変盛り上がりました。

3. ネット熟議

本文第一回のリアル熟議を受け、大阪と東京の参加者と合同でネット熟議を開催しました。2012 年 9 月 9 日 (日) 00:00~10 月 14 日 (日) 24:00 まで、「ガラケー派、スマホ派？」をテーマに、スマートフォンの課題について、第一回での議論を踏まえ、文部科学省「熟議カケアイ」のサイト(注 1)を使い、ネット上で熟議することにより、スマートフォンへの理解を深め、課題点をより明らかにさせることを目的に実施しました。

4. 高校生熟議サミット・提言発表

2012 年 12 月 15 日 (土) 東京・大阪のそれぞれ 3

名の高校生代表(計 6 名)がそれぞれの熟議の結果を持ちより、最終提言をまとめるための熟議を開催しました。この提言は、「高校生の意見を中央に」と考え、内閣府、総務省、文部科学省にてプレゼンテーションも実施しました(表 1)。

5. 最後に

平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まりました。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT(情報通信技術)サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されています。高校生熟議での一連の取り組みは、その一助になったと確信しています。

高校生が家庭や学校で如何に取り組むべきかを提案できたことが一番の成果だと考えます。高校生による熟議はまだ例が少ないですが、今回のテーマであるインターネットやスマホ(携帯電話)については、既に高いリテラシーを獲得している生徒もいる一方で、未だスマホを所持していない生徒も、共に熟議に参加することにより、それぞれの立場から共通の問題点や課題、将来性を検討したことで、双方の生徒が新しい気づきを得、今後、この問題についてより深い思慮が得られるきっかけとなったと考えます。

熟議は現場の課題解決と教育政策形成の新たな手法として期待される一方、熟議への参加は、関係者の参画意識の向上、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、学びあい、協働のための意識と行動の促進、参加者がともに作り上げる解決策など高い教育効果と民主的な態度の育成に貢献する。ゆえに、多くの教育現場で熟議が行われてほしいと願います。

今年度は、大阪、東京以外の地域で具体的に奈良、札幌、大分で開催を企画しています。是非ご参加ください。また、この場をお借りしまして主催団体はじめ後援いただきました内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、一般社団法人全国高等学校 P T A 連合会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会また関係企業、教育関係者の皆様に感謝申し上げます。

参考

大阪私学教育情報化研究会サイト
文部科学省 政策創造エンジン 熟議カケアイ
(<http://jukugi.mext.go.jp/>)
モバイルコンテンツ監視機構 EMA サイト